国立病院機構熊本医療センター

No.242

くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER　KUMABYO NEWS

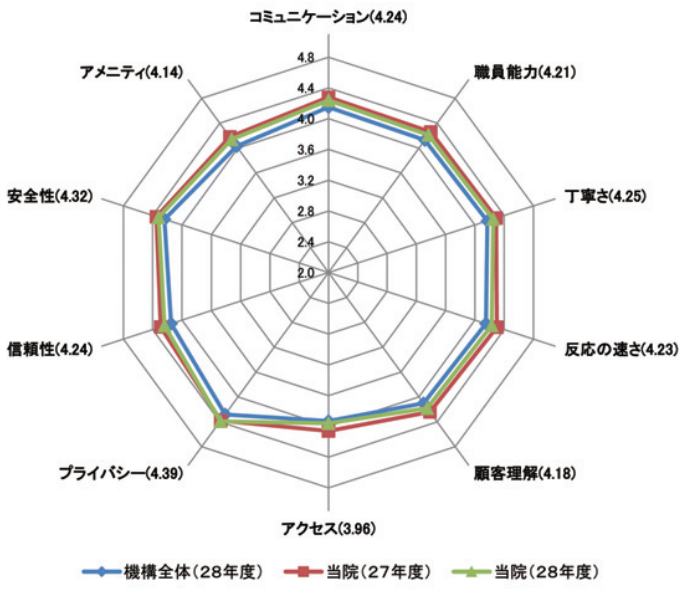
発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市中央区二の丸１番５号
TEL（096）353-6501（代）
FAX（096）325-2519
連携室直通 TEL（096）353-6693
連携室直通 FAX（096）323-7601

平成28年度 患者満足度調査の結果が発表されました

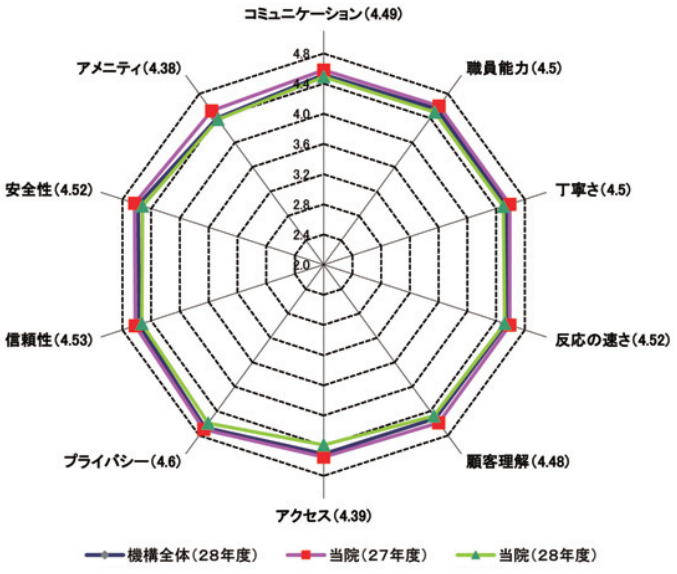
当院は毎年、「患者満足度調査」を実施しております。昨年10月に実施された患者満足度調査の結果は国立病院機構の500床以上12病院の中で外来３位、入院７位という結果でした。現在、外来サービス向上委員会及び病棟サービス向上委員会にて各調査の集計結果や患者様から寄せられたご意見から、分析を行っています。27年度の結果を上回った部分も見られますが、まだまだ足りない点が多くあります。今回の結果を真摯に受け止め、改善に向けて努力したいと思います。患者満足度向上を目指し、引き続きサービス向上に取り組んで行きますので、今後とも皆様のご協力、ご支援をお願い致します。

（算定・病歴係　窪田真莉絵）

【平成28年度10の医療サービスクオリティ別平均点数】



（外来）



（入院）

基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、
良質で安全な医療を目指します。

運営方針

1．良質で安全な医療の提供
2．政策医療の推進
3．医療連携と救急医療の推進
4．教育・研修・臨床研究の推進
5．国際医療協力の推進
6．健全経営

患者様の権利

1．良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2．ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3．病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4．自分の診療記録の開示を求める権利があります
5．セカンド・オピニオンを求める権利があります
6．個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります

VOICE 登録医の声

「地域の先生方へ、１人の耳鼻咽喉科非常勤医からのお願い」

熊谷耳鼻咽喉科医院
副院長　熊谷　譲

熊谷耳鼻咽喉科医院の熊谷　譲と申します。

当院は祖父の代に藤崎宮のお膝元で耳鼻咽喉科医院を開設し、半世紀以上になります。現在は院長の父、直賢と交代で診療を行なっており、たくさんの患者様や地域の諸先生方に支えられ、地域の健康に貢献できますように診療を行って参りました。

熊本医療センターは当院からも近く、耳鼻咽喉科はもちろんのこと、いくつもの科で大変お世話になっております。忙しい業務の中、スタッフの皆様に快く患者様を受け入れていただき、また基本理念にある、“最新の知識・医療技術と礼節をもって良質で安全な医療”、“専門性の高い医療”を提供していただき、本当に感謝しております。

私と熊本医療センターは関係が深く、祖父浩運は昭和21年に初代医長として耳鼻咽喉科の開設に関わり、私は同じ国立病院機構の国立国際医療研究センターで1999年から2010年まで研鑽を積んでまいりました。また現在の耳鼻咽喉科医長の上村　尚樹先生とは小、中、高校からの同級生です。

現在、私は耳鼻咽喉科非常勤として毎週火曜日、木曜日に上村医長と一緒に外来診療や検査を中心に勤務しております。当センターは地域医療の基幹病院として御紹介も多く、また軽症例から重症例まで症状や疾患も多岐にわたっております。そのような中、上村医長が手術、入院、外来診療、教育まで一人で激務をこなされております。（上村先生、あんたは偉い！）

地域の先生方にお願い申し上げます。当センターでは入院治療や手術治療の必要な方を中心に診療を行なっております。地域にはたくさんの優秀な耳鼻咽喉科の先生方が日々診療を行なっておられますので、もし耳鼻科疾患で困ったことがあれば、まずは地域の先生に御相談ください。そのうえで手術や入院など必要であれば当センターへ御紹介いただければ幸いです。

これからも、猛暑が続きそうです。諸先生方におかれましてはくれぐれも御自愛下さい。今後、熊本医療センターのますますの御発展とスタッフ皆様の御健勝をお祈り申し上げます。

（特に上村先生、あまり無理はしないように！先生の肩と健康に熊本の耳鼻科診療の未来がかかっていますから。）

薬剤師外来を開始しました

平成29年６月１日よりがん領域の外来患者さんを対象に薬剤師外来を開始いたしました。これまでも外来化学療法センターでは薬剤師が抗がん剤調製を行い、必要に応じて患者さんのもとに伺い、薬の説明を行うことはありましたが、十分な対応はできていませんでした。薬剤師外来の開始に伴い、一定程度以上の経験を有した５名の薬剤師が曜日交代で注射の抗がん剤および一部の内服抗がん剤で治療を受けられている患者さんを対象に薬の説明、副作用の確認、主治医への疑義照会や支持療法薬の処方提案等を行っています。外来で抗がん剤治療を受けられる患者さんは年々増えてきており、このような患者さんの治療に少しでも貢献していければと考えております。

（薬剤部主任　横田千明）

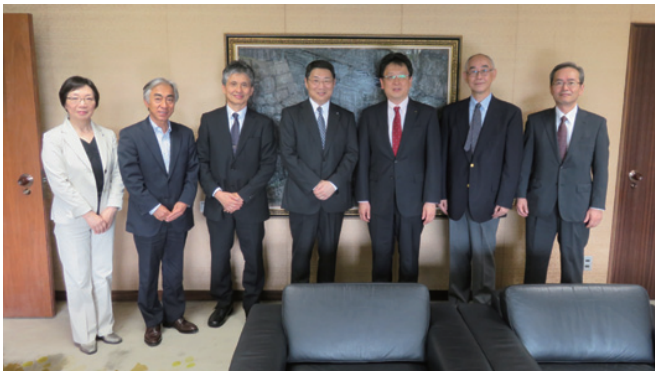
薬剤師外来にてスタッフと、患者さんの情報共有をしている風景

熊本市長を訪問しました

本年４月の髙橋院長の就任挨拶として、6月16日に大西一史熊本市長を訪問しました。大塚副院長、清川副院長、渡邉統括診療部長、佐伯看護部長とともに、市長応接室に案内して頂きました。髙橋院長から新体制メンバーの紹介、当院の診療概要、熊本県・熊本市における当院の役割などをご説明しました。

大西市長からは、熊本地震発生時の当院の救急患者等の受入れや日頃の救急医療体制等について、感謝の意を頂きました。また、2019年夏、熊本の中心市街地に、日本最大級のバスターミナルを有する複合施設が誕生し、商業施設、公益施設（ホール）、ホテルなど、多様な用途が一体となり、大勢の人が集まる場所となります。この場所に最も近い救急病院として、当院の医療需要と役割が益々大きくなるため、市民及び観光客などに対する医療協力の要請がありました。

会談の様子



大西一史市長と記念撮影

また、当院は現在「病院増改修整備工事」に着工していますが、熊本城の復旧工事と重なり、二の丸公園周辺道路で交通渋滞が起きていることをお伝えしました。通行止めの行幸坂は緊急車両と大型工事車両のみ通行を許可頂いておりますが、二の丸公園でのイベント開催時の渋滞事情等もお話しました。

最後に、熊本城マラソンに当院は救護班として毎年活動している旨もお伝えしました。今後も、熊本市をはじめ関係市町村への医療・福祉に寄与し、市民・県民から信頼される医療機関として更なる努力を傾注したいと思います。市長訪問の機会を頂き感謝を申し上げます。　　（事務部長　内田正秋）

熊本市消防局との連絡会議を行いました

平成29年度熊本市消防局・国立病院機構熊本医療センターと「顔の見える救急医療の構築」を目的とした救急連絡会議が7月５日（水）当院会議室にて行われました。

熊本市消防局からは、中村消防局長、本田総括審議員、西岡警防部長をはじめ救急課員の方々に出席いただきました。

まず髙橋院長の開会挨拶、中村局長のご挨拶に続き議事に移りました。

熊本市消防局より平成28年救急統計及び救急ワークステーション実績について報告があり救急出場件数は年々増加傾向にあり28年中は地震の影響もあり４万件を超える出場件数とのことであった。

当院からは救急車及び航空医療の受け入れ状況、救急隊員の研修受け入れ実績、そして「病院増改修整備工事」工程について事務局より報告されました。

連絡協議会の様子

意見交換後、消防局より当院の「365日24時間断らない救急医療」体制に感謝申され今後とも密に連携し更なる救急医療体制の構築に取り組むことを確認し閉会しました。

（救急医療支援担当　後藤達広）

熊本県防災消防ヘリコプター運用連絡会議が行われました

６月５日に当院で熊本県防災消防ヘリコプター運用連絡会議が行われました。この会議は、平成27年度から行っているもので今回が第３回になります。当院からは院長、副院長、統括診療部長、看護部長、事務部長、救急科医師が、熊本県からは熊本県総務部理事、消防保安課長、防災航空センター所長・隊長など総勢22名で行われました。

熊本県ではドクターヘリ（熊本赤十字病院が基地病院）と防災消防ヘリ「ひばり」（熊本県）との２機体制でヘリ救急医療体制を築いており、当院は熊本県から防災ヘリの支援病院（熊本県地域救急医療体制支援病院）に指定され、365日体制でのフライトドクター待機を行い、重複事案や多数傷病者事案におけるドクターヘリの補完や重症患者の病院間搬送を行っております。

また、まもなく現在の「ひばり」は長い役割を終えて機体の更新が行われます。当院が防災消防ヘリの支援病院としてヘリ救急医療活動を行っていくためにも熊本県との強い連携が不可欠です。今後も熊本県と協力して地域の救急医療に貢献していけたらと思います。

（救命救急センター長　原田正公）

熊本県防災消防ヘリコプター運用連絡会議の様子

夏の風物詩

七夕飾り・サマーコンサートが行われました

７月18日（火）13時30分から、ボランティアで活動されている「美齢重（ミレージュ）」の皆さんによるトーンチャイム演奏のサマーコンサートが、外来フロアで行われました。入院患者さまやご家族、外来受診の患者さまや職員も含めて30名以上の方々にお集まりいただきました。

「ふるさと」「夏は来ぬ」など、患者さまも歌で参加できる楽曲を演奏されたり、「たなばたさま」の演奏では患者さまも実際にトーンチャイムを持って一緒に演奏されたり、参加型の内容を含むものとなっており、夢中でトーンチャイムを鳴らす患者さまの表情がとても印象的でした。皆で一つの楽曲を演奏した後は、とても誇らしげな表情で、その場の雰囲気にも一体感が生まれました。１時間という短い時間でしたが、トーンチャイムの優しい音色に皆さん心安らぐ時間を過ごされたようで、大盛況に終わりました。

（庶務班長　毛利安則）

サマーコンサートの様子

外来の七夕飾り

６西病棟の壁面の飾り付け

ICUのナースステーションカウンターの七夕飾り

公開看護セミナーが行われました

７月１日、研修センター大ホールにて、「コミュニケーション上の危険予知力を高める」というテーマで、コミュニケーションデザイン研究所の渡邉直子先生より講演が行われました。院内50名、院外42名、合計92名と多くの方に参加いただきました。

相手に伝える伝え方にも言葉だけでは限界があり、相手に伝わっていなければ全く意味がないということを学びました。また、医療従事者に求められるコミュニケーションＫＹＴを、事例を通してワークを行いながら考えることが出来ました。ワークでは活発な意見が聞かれ、参加者の意識の高さがうかがえました。

ご講演頂いた渡邉直子先生

公開看護セミナー会場の様子

コミュニケーション上の「インシデント」という発想を、事例を用いることで実際の臨床に重ねることができ、受講者にとって非常に有意義な時間であったのではないかと思います。

最後に、医療現場で接遇が向上することは、医療安全活動に繋がるということを「医療の本質」「サービス業」「チーム医療」「リスクマネジメント」の４つの観点からまとめられ、コミュニケーションの大事さを改めて認識する素晴らしい機会になりました。

（５西病棟教育委員　矢住　梓）

新人リフレッシュ研修が行われました

本年度入職した新人看護師37名と共に、グリーンピア南阿蘇でリフレッシュ研修を行いました。お天気にも恵まれ、広大な美しい緑の大地を眺めながら、院外で美味しい食事と温泉を堪能し、同期の仲間達と過ごした時間はとても貴重だったと思います。

メンタルヘルスのグループワークでは「先輩に迷惑をかけている」「勉強が追いつかない」「自分だけ遅れている」という不安や悩みを表出し、仲間の意見を聞くことで「自分だけできていないと思っていたが、みんな同じ気持ちだった」という思いの共有ができました。新人看護師の気持ちも落ち着き、表情も明るくなり、夜の意見交換会では幹部の皆さんにも参加して頂き、院長主催のなぞなぞゲームで盛り上がり、楽しい時間を過ごしました。

幹部の皆さんと集合写真（広大な緑の大地、南阿蘇にて）

久しぶりに身体を動かし、リフレッシュしました

翌日は、久しぶりにドッジボールで身体を動かし、親睦を深めることができました。その後、接遇について学び、患者・家族の気持ちを考え、「信頼」「誠意」「安心感」を得られるように看護師として行動することを導き出しました。

同じ境遇の仲間と共に過ごし、研修目的の「リフレッシュ」は達成できたのではないかと思います。

（教育研修係長　榊原チハル）

医療安全研修会が行われました

平成29年６月29日・30日、７月３日・５日に研修センターホールにて、全職員を対象とした今年度第１回目の医療安全研修を行いました。参加者数は、医師、コメディカル、看護職員、事務職員など合計872名でした。

テーマは『患者誤認』で、当院で実際に起きた患者誤認の事例を振り返り、患者確認の重要性と再発防止に向けての取り組みを説明しました。具体的には、６月より院内で運用開始となっている「書類取り扱い時の患者確認フローチャート」に基づき、診療情報提供書等の書類を準備する際の患者確認方法について動画などで説明し、視覚的に伝えたことで理解を深めることができました。また、患者確認の際に、指差し呼称で確実にフルネームを確認するという行動を、参加者全員でロールプレイを行って理解してもらいました。

医療安全研修会の様子

後半は、当院で最近起きたインシデント事例を報告し、院内の医療安全マニュアルに立ち戻りに、ルール通りに行動できるよう働きかけました。参加者からは「小さな確認を怠ると、大きな事故に繋がるということが分かった。」との声が聞かれました。

今後も全職員が良質で安全な医療が提供できるように、取り組んでいきます。

（医療安全係長　堂園千代子）

地域医療連携室直通電話をご利用下さい

先生方には日頃より患者様の御紹介を頂きありがとうございます。

当院は、地域医療連携室へのお電話が繋がりにくいとのご指摘を受け、直通電話を設置致しております。

この直通電話は、**関係医療機関の皆様から頂くお電話のみ**をお受け致します。患者様からの直接のご相談は、代表電話を通じて承る予定です。

医療機関の皆様のための直通電話になります。ホームページ等では公表いたしておりませんので、ご了承下さい。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室直通電話

096-353-6693

月～金（祝日を除く）AM８:30～PM 17:00

地域医療連携室長　渡邊健次郎

熊病の歴史

治験センター

医薬品の臨床試験の実施の基準（新GCP）が厚生省（現厚生労働省）から省令化（厚生省令第28号・平成９年４月１日施行）されたことに伴い、被験者の人権と安全性の確保、臨床データの信頼性の確保をはかり、治験（臨床試験）が倫理的な配慮のもとに科学的で適正に実施されるための基準が示されました。国立病院等の治験体制を整備する目的で国立病院部長通知及び政策医療課長通知が出され、厚生労働省の意向で国立の医療機関として治験に深く携わっていくこととなりました。

国立熊本病院では平成13年４月に治験センターを設立し、治験コーディネーター（以下、CRC）として薬剤師１名、看護師１名を配置し、同年９月に看護師１名増員し合計３名となり、治験業務の実施体制を整えました。

治験センターは治験事務局及び受託研究・治験審査委員会（IRB）事務局の業務を行うと同時に、円滑な治験実施を図り、EBM研究にも積極的に関与することで、臨床研究の管理と支援を総括することを目的としています。主な業務内容としては、治験等の受託に関する業務、受託研究・治験審査委員会（IRB）の開催、文書によるインフォームド・コンセントの補助、治験依頼者モニタリング・監査の受け入れ、CRC（治験コーディネーター）による被験者対応およびマネジメント、EBM研究の支援を行っています。

治験センター開設後、院内の治験説明会、院内通知の発行、院長・医長カンファレンスでの治験の説明などを通して治験の啓蒙活動を行っております。また臨床研究部長、薬剤部長、副看護部長、業務班長、医事課職員と治験センター職員による治験会議を毎週開催し、病院内の治験の運営について検討しています。治験会議は本年６月で約650回となり、治験センターの運営に大きく貢献しています。

平成15年10月治験主任薬剤師、平成16年４月看護師（正職員）、平成17年４月治験主任薬剤師２名が配置され、現在は治験主任薬剤師３名、看護師（正職員）３名、看護師（非常勤）１名、臨床検査技師（非常勤）１名、事務（非常勤）２名の10名の職員が治験センター専任となっています。

平成12年度は治験実施率38.2%でした。治験センター設立後の平成13年度59.5%、平成14年度90.5%となり、近年、90%前後の実施率となっていましたが、平成28年度の実施率は、56.5%でした。平成28年度の実施率が大幅に低下したのは、熊本地震の影響により、４月、５月の組入れ症例数は例年より大幅に減少し、組入れがなく終了した試験が複数あったことが要因です。救急の治験や、抗がん薬のⅠ相試験が増加し、プロトコルも煩雑になってきており、治験用レジメンを作成することで対応しています。このような現状において、速やかに契約症例を完遂できるよう努力し、実績を積み重ねることが非常に重要であると思います。今後も治験責任医師をはじめとする院内関連部署のスタッフの治験に対する認識を更に深め、治験の環境整備の向上と治験業務の効率化を図り、実施症例数を増やせるよう目指しています。

（薬剤部長　中川義浩）

熊病　治験センター職員　2008年

医学シリーズ No.239　耳鼻咽喉科（No.９）

最近のトピックス

経口腔的咽喉頭腫瘍摘出術

(ELPS；Endoscopic Laryngeal Pharyngeal Surgery)

耳鼻咽喉科医長
上村　尚樹

これまで咽喉頭癌、特に下咽頭癌に関しては早期では無症状のために、症状が出現し耳鼻科を受診した場合はもうすでに進行している場合が多く、そのため長時間の大手術（咽頭喉頭頸部食道摘出術＋頸部郭清術＋遊離空腸による再建術；12～15時間）を必要とする症例が多く存在していました。そのため我々耳鼻咽喉科医は早期の咽喉頭癌に対しては、おもに放射線化学療法、時に頸部外切開による腫瘍切除（皮弁による再建も必要）に頼らざるをえませんでした。

しかし近年内視鏡機器の発達により胃カメラの検査（特に検診）で早期の下咽頭癌が発見されるようになり、ごく早期の時点で耳鼻科へ紹介される症例が増加してきています。10年前頃よりこれら下咽頭早期癌に対し経口腔的に腫瘍を切除する術式の報告が散見されるようになりました。これは読んで字の如く口腔より特殊機器を挿入して下咽頭を展開し、胃カメラで腫瘍を明視下において高周波メスで摘出する方法で、消化器内科医とのコラボ手術です。食道癌に対してはESDという方法で早期のものに対しては内視鏡下に外来手術で行われていますが、その下咽頭版と考えてもらうとよいと思います。

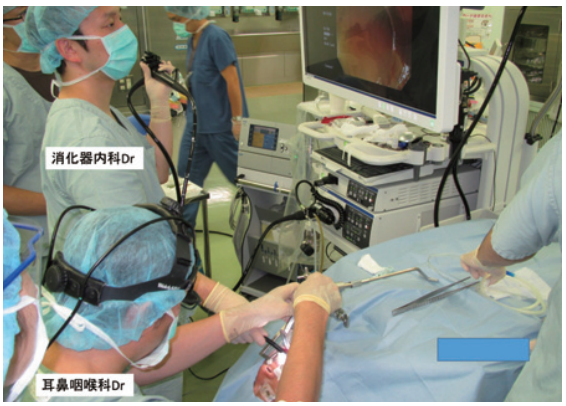
この手術の長所は何といっても低侵襲で入院期間が短いことです。従来はこのような症例に対しては概ね放射線化学療法の適応であり、その場合入院期間は２～３か月でした。しかし本手術では、①手術時間が２時間、長くて３時間であること。②入院期間が７～10日であること。③手術翌日より経口摂取可能であり、放射線性皮膚炎や粘膜炎による経口摂取不良に伴う体力の低下に比べると明らかに体力の回復も早いこと。などがあげられます。

一方デメリットといえば、①手術時間が２時間、長くて３時間であること。②歯牙損傷（特に上顎前歯部）③咽頭痛（結構強い！）④出血

患者にとってこれまでの治療と比べるとメリットがデメリットをはるかに上回っていると言えます。

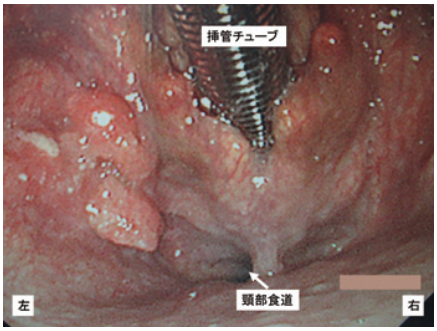
我々耳鼻咽喉科医にとってのメリットは、①頸部食道に病変が及ぶ場合はESDで切ってもらえること②２人で相談しながら手術を進めていくことができること③術創を生食で洗浄するなど胃カメラにはさまざまに機能があり、それによるサポートが受けられることなどです。

我々耳鼻咽喉科医にとってのデメリットは、①消化器内科医がいないとできないこと②消化器内科医とのコラボ手術であるためお互いの都合のいい時期でないと行えないこと③消化器内科医と耳鼻咽喉科医の息が合っていないとできないこと（手術している部位を内視鏡で明視下におけて、かつ手術器具同士あるいは手術器具とカメラが干渉しあわないようにする必要があります。）などです。

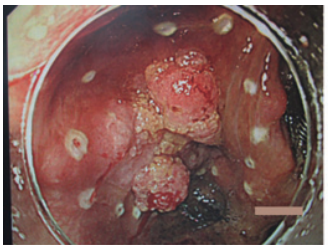


当科では本年１月よりELPSを開始しています。これまで５例施行しました。まだ日が浅く再発例などはありませんが、ほぼ良好な結果が得られ、日常の生活を送ることができています。

今後このような症例が増加することが見込まれます。そのため我々は患者にとってメリットの大きいこの治療法を確立すべく貪欲に挑み続けていき、更なるデータの蓄積と手術技術の向上に邁進したいと思います。ぜひご紹介下さい。

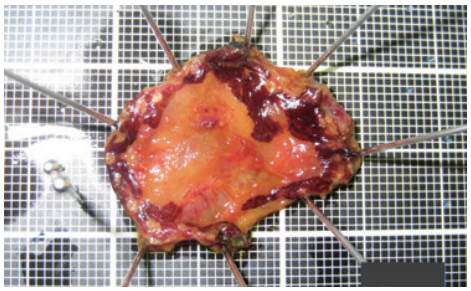


左梨状陥凹に表面不正な隆起性病変



腫瘍周囲にマーキング

腫瘍切除後



摘出標本

いま、国立病院機構
熊本医療センターで
何が研究されているか

シリーズ115回

3Tを用いたFusion T2WI TSEにおける コントラスト評価とモーションアーチファクト低減効果

診療放射線技師　阿萬貴史

【目的】

MRIにおける腹部領域の撮像では、呼吸によるモーションアーチファクト対策として、呼吸停止法、呼吸同期法、および横隔膜同期法を用いて撮像を行います。当院では、腹部領域のT2強調画像（T2‐weighted images：T2WI）に関して時間分解能が高く、モーションアーチファクトの低減に有効なsingle shot Turbo Spin Echo（ssh TSE）を用い、呼吸同期を併用して撮像しています。しかし、ssh TSEはブラーリングが発生し、診断に影響を及ぼしていることが考えられます。今回、上腹部領域のT2WIに関して、脂肪抑制併用multi shot T2 TSEと水抑制併用ssh TSE（以下：水抑制ssh TSE）をFusionさせることで（以下：Fusion T2WI TSE)、T2コントラストを担保し、モーションアーチファクトの低減が可能か検討を行いました。

【方法】

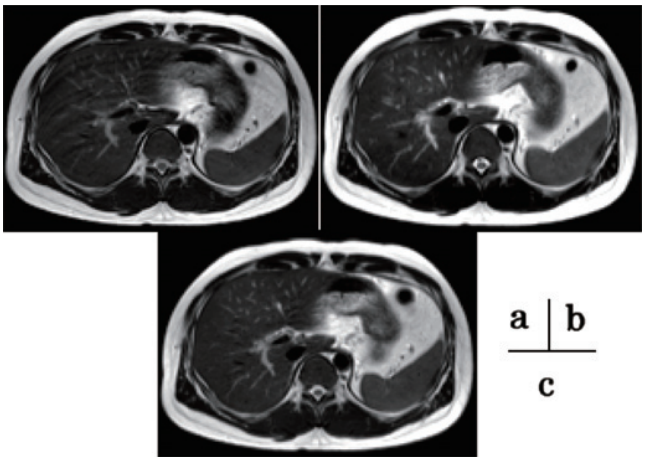
装置はPHILIPS社製Ingenia 3Tを用いました。基礎実験として、肝臓のT1、T2値に近似するようGd-DTPAを生理食塩水で希釈した自作ファントムを用い、水抑制ssh TSEのTEを変化させたFusion T2WI TSEと従来のmulti shot T2 TSE（以下：msh TSE）とのコントラストを評価しました。さらに健常ボランティアを対象とし、msh TSE（呼吸停止)、ssh TSE（呼吸同期)、Fusion T2WI TSE（呼吸停止)の撮像を行い、肝臓内のコントラスト及びモーションアーチファクトの低減効果について視覚評価を行いました。有意差検定は、Steel‐Dwass法を用い、危険率５％未満を有意差ありとしました。

【結果】

基礎実験より、Fusion T2WI TSEは、TEを最適化することでmsh TSEと同等のコントラストが得られました。また、最適化された撮像条件で撮像を行った同一健常ボランティアの画像を図１に示しています。視覚評価において、コントラストは門脈と肝実質間でmsh TSEと同等となり、ssh TSEに比べ上昇していました。またモーションアーチファクトは肝左葉において、msh TSEに比べ低下しており、ssh TSEと同等となりました。次に視覚評価の結果を表１に示しています。コントラストの評価結果は、Fusion T2WI TSEが最もスコアが高く、次いでssh TSE（呼吸同期)、msh TSE（呼吸停止）の順であり、全ての画像において有意差が認められました。また、モーションアーチファクトの低減効果においても、Fusion T2WI TSEが最もスコアが高く、それぞれの画像間において有意差が認められました。

【結論】

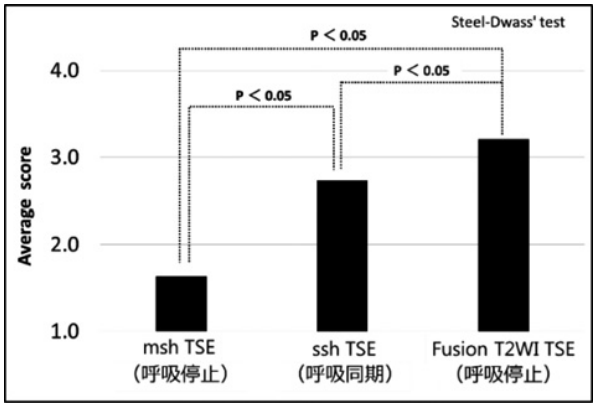
Fusion T2WI TSEはT2コントラストを担保し、モーションアーチファクトの低減が可能でした。今後は、臨床評価を含めた更なる検討を進めていきたいと思います。



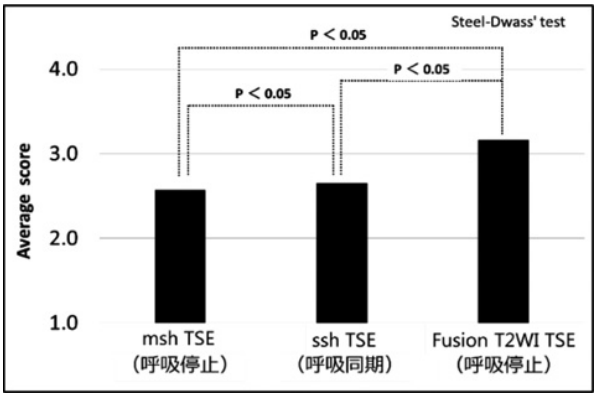
a）msh TSE（呼吸停止）　b）ｓsh TSE（呼吸同期）
c）Fusion T2WI TSE（呼吸停止）

図１　同一健常ボランティア撮像画像

表１　健常ボランティア撮像画像における視覚評価



a）コントラスト



b）モーションアーチファクト

研修医レポート

臨床研修医
大野（おおの） 健翔（けんと）

こんにちは、研修医１年目の大野健翔と申します。熊本大学を卒業し４月から初期臨床研修をさせていただいております。研修開始から３カ月が経ちました。まだまだ慣れないことばかりですが、多くの先生方、コメディカルの方々、そして共に医療者として歩み出した多くの同期に支えられながら、充実した日々を送っています。

私の研修生活は救急外来から始まりました。始まったばかりで医療の知識も技術も不足している中、とてつもない数の救急患者に対応するのは本当に大変でした。重症症例に対して後ずさりしそうになり、ルート確保もままならず、検査項目も選べず、最初は毎日反省と後悔の繰り返しでした。７週間が終わる頃には、どんな主訴の症例が来ても身を乗り出して診察に向かい、検査項目を選択できるようになってきていて、１日１日自分の出来ることが増えているのを実感できとても充実した救急外来での研修でした。

その次は糖尿病・内分泌内科での研修でした。当院では糖尿病の血糖コントロール目的入院の方が多く、病態について多くのことを学びました。また、入院中に状態が安定し、退院後の生活に戻ったとしても状態が維持できるような治療内容を見つけなければいけない。この難しさと大切さを学べて糖尿病・内分泌内科で研修して本当に良かったと感じています。

平成28年４月に熊本地震が発生した時、私は熊本大学の６年生でした。学生として出来ることを必死に探して、学生団体を作り、避難所生活を続けている方に物資を運ぶボランティアを出来たことはとても良い経験でしたし、この時感じた気持ちは今後も忘れずに日々患者さんと向き合っていこうと思っています。

研修医としてまだまだ駆け出しで分からないことばかりですが、今後もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

臨床研修医
榎木（えのき） 愛里（あいり）

こんにちは。研修医１年目、熊本大学出身の榎木愛里と申します。新しい環境に慣れることで精いっぱいだった４月からはや３ヶ月が経過し、麻酔科での研修を終了後、現在は血液内科で研修しております。

麻酔科では数多くの手技、そして全身管理を経験させていただきました。始めはルートの組み立てにも手間取っていましたが、日々ルート確保や挿管、腰椎穿刺、人工呼吸器の操作、胃管の挿入、動脈採血などたくさんの手技を行い、自分の中で形にすることができました。また術前のカンファレンスで発表することで患者さんの全身状態を把握し、それがどのように麻酔に必要なのかを学びました。予定手術も緊急手術も合わせて計57件の麻酔を経験し、麻酔への理解が深まったと思います。

現在研修している血液内科では常時10人弱の患者さんを受け持ち診療にあたっています。学生のときはなかなか長い経過で患者さんをみることができなかったので、入院から退院までをみることができ勉強になります。全国の中でも当院が多く行っている骨髄移植の患者さんも受け持つことができ、感染の管理や生着までの経過などを学んでいます。血液内科では原疾患や抗がん剤で免疫が低下した患者さんが多く、感染のコントロールのむつかしさを実感しました。また、長く付き合わねばならない病気であるがゆえに患者さんと医師の付き合いもより深いものであると感じています。

そのほか週に１回ほど救急外来での勤務に入ったり、症例発表をしたりと充実した研修を送っています。これからもご迷惑をおかけすることが多々あるかと存じますが日々精進してまいりたいと思います。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

病院増改修整備工事の進捗状況

平成29年６月から、本格的に始まった研修棟及び旧食堂・売店棟の建物外部解体は、大きな障害もなく無事に完了し、現在、基礎の解体が行われているところです。研修棟及び旧食堂・売店棟の基礎解体と同時期に既存棟（病院本体）の外壁、庇等の解体も並行して行われる予定です。引き続き安全を最優先に作業計画を行い、工事を進めてまいります。ご理解とご協力を宜しくお願い致します。　（業務班長　朝重久緒）

＜今後のスケジュール予定＞

- 研修棟、売店食堂棟解体：Step 2
  平成29年４月～平成29年８月
- 増築棟新築工事：Step 3
  平成29年９月～平成30年11月
- 外来棟改修工事：Step 4
  平成30年12月～平成31年８月

研修棟建物外部解体後

（※スケジュールは、今後の工事進捗状況によって変更する場合があります。）

研修のご案内

第222回　月　曜　会（無料）
（内科症例検討会）
［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］

日時▶平成29年８月21日(月)19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室２

１．内科症例検討　　診療で遭遇した興味ある症例の検討を行います。
「第１症例　後天性穿孔性皮膚症を呈した2型糖尿病の１例」
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科　　渡辺拓郎
「第２症例　まれな重症肺炎の１例」
国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長　　小野　宏
２．ミニレクチャー「けいれん発作の実践的診療」
国立病院機構熊本医療センター神経内科　　山川詩織

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。
〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター教育研修部長　富田 正郎　TEL：096-353-6501(代表) FAX：096-325-2519

第155回　救急症例検討会（無料）

日時▶平成29年８月23日(水)18：30～20：00
場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：「腹痛」
国立病院機構熊本医療センター外科部長　　宮成信友
国立病院機構熊本医療センター消化器内科部長　　杉　和洋

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。
事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。
〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線2630　096-353-3515（直通）

第92回　特　別　講　演（無料）
［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］

日時▶平成29年８月30日(水)19：00～20：30
場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター副院長　　大塚忠弘
「頭頸部癌手術治療の実際」
熊本大学大学院生命科学研究部耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授　　折田頼尚先生

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター　TEL 096-353-6501（代表）096-353-3515（直通）

2017年 研修日程表 8月

国立病院機構熊本医療センター　地域医療研修センター

8月	研修センターホール	研　修　室
1日 (火)		
2日 (水)		
3日 (木)	8：15～8：45　二の丸モーニングセミナー 「人工呼吸器管理について」 国立病院機構熊本医療センター麻酔科部長　瀧　賢一郎	
4日 (金)		
5日 (土)	13：00～15：30　第145回 公開看護セミナー	
	「入院治療を安全に行うために必要な認知症患者看護のポイント」 熊本保健科学大学キャリア教育研修センター 認定看護師教育課程認知症看護分野　老人看護専門看護師 飯山　有紀　先生	
6日 (日)		
7日 (月)		
8日 (火)		
9日 (水)		
10日 (木)		
11日 (金)		
12日 (土)		
13日 (日)		
14日 (月)		
15日 (火)		
16日 (水)	14：00～15：00　第53回 市民公開講座 「糖尿病合併症について」 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科医長　木下　博之	
17日 (木)	20：00～21：30　第76回 医歯連携セミナー 「口唇の位置や運動から診た上顎前歯の至適位置；顎矯正手術から」 ～最新の顎矯正手術について～ 福岡大学医学部医学科歯科口腔外科学講座教授　喜久田 利弘　先生	
18日 (金)		15：30～16：45　肝臓病教室（研２） 「肝硬変・自己免疫性肝疾患について」
19日 (土)	8：50～17：25　第６回 すべてのナースのための エンド・オブ・ライフ・ケア －ELNEC-J in KMC－（１日目）	
20日 (日)	8：30～16：30　第６回 すべてのナースのための エンド・オブ・ライフ・ケア －ELNEC-J in KMC－（２日目）	
21日 (月)		**19：00～20：30　第222回 月曜会（内科症例検討会）（研２）** **［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］**
22日 (火)		
23日 (水)	**18：30～20：00　第155回 救急症例検討会** **「腹痛」**	
24日 (木)	8：15～8：45　二の丸モーニングセミナー 「画像診断」 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長　根岸　孝典	
25日 (金)		
26日 (土)		
27日 (日)		
28日 (月)		★今月の注目
29日 (火)		
30日 (水)	**19：00～20：30　第92回 特別講演** **［日本医師会生涯教育講座1.5単位認定］** **「頭頸部癌手術治療の実際」** **熊本大学大学院生命科学研究部** **耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授　折田　頼尚　先生**	事前の参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。
31日 (木)	8：15～8：45　二の丸モーニングセミナー 「外傷初期診療」 国立病院機構熊本医療センター外科医長　水元　孝郎	

研１～３　２階研修室１～３

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ（http://www.nho-kumamoto.jp/）をご参照ください。

問い合わせ先　〒860-0008　熊本市中央区二の丸１番５号　国立病院機構熊本医療センター２階　地域医療研修センター TEL 096-353-6501（代）内線2630　096-353-3515（直通）